

**災害の予防や復旧には、正確な情報を早く入手し、状況を把握する事が絶対条件です。
 公衆無線LANに流れる情報の安全性を確保、Surface Goを情報収集の
 デバイスに変える画期的な連携ソリューション誕生！**

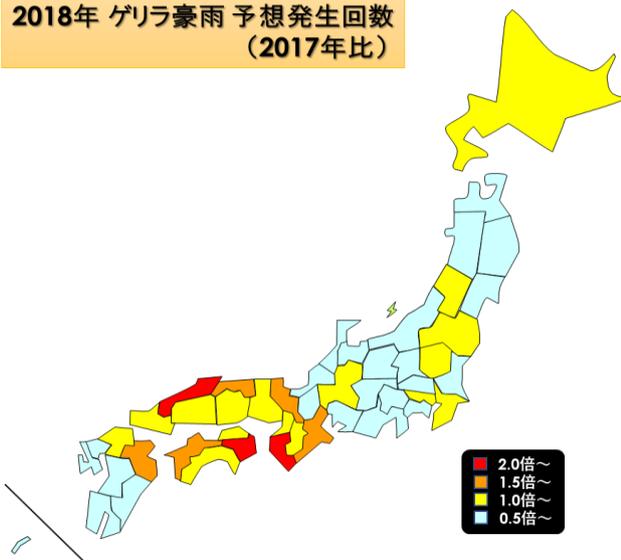
秘密分散技術を活用した独自のセキュリティソリューションを開発・販売する株式会社イノベーション・ファーム(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山田 徳行、以下「イノベーション・ファーム」)は、軽快な情報ツールである Microsoft『Surface Go』を災害発生時の現場情報収集ツールに変える画期的な情報共有ソリューション『Pro-Porter Mobile』を8月より提供開始致します。ゲリラ豪雨による災害は年々大きくなって来ております。7月6日からの西日本各地を襲った豪雨は200名以上の人命を奪い、数千の家屋や施設を飲み込みました。災害対策には情報収集は不可欠な条件であり、災害用統一ネットワーク『00000JAPAN』は有効的な手段として期待されているが、セキュリティの観点から疑問視もされている。『Pro-Porter Mobile』は公衆無線LAN『00000JAPAN』の特性を最大限に活かし、Microsoft Azure 経由で、必要な人に安全に的確に情報を伝えることができる画期的な情報共有基盤を実現致します。

【概要】

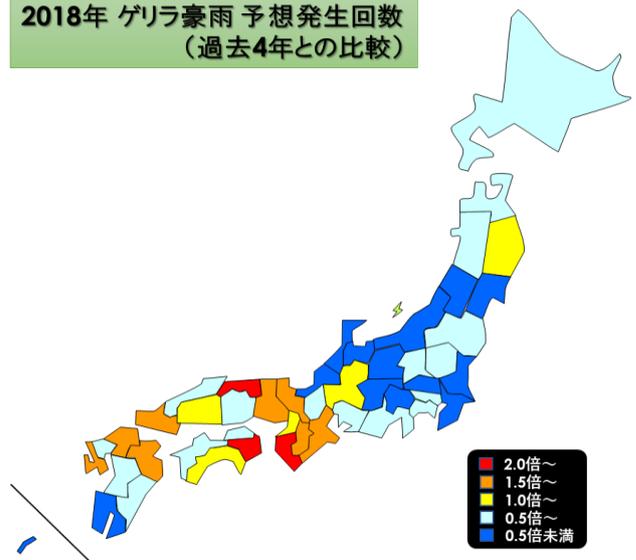
近年、短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨(いわゆるゲリラ豪雨)が頻発し、大きな被害になっております。今後10~20年は豪雨の発生が多くなると予想されております。7月~9月のゲリラ豪雨は、全国で3,852回発生する予想であり、高気圧の縁にあたる西日本では2017年比・過去4年(2014年~2017年)平均比ともに増加する地域が多い見通しです。7月中旬~8月中旬までに全体の約7割が発生するとみています。高知県では、降りはじめからの降水量が1500ミリを超え、岐阜県や九州北部および九州南部では900ミリ以上に達しました。この大雨により、福岡、佐賀、長崎、広島、岡山、鳥取、兵庫、京都、高知、愛媛、岐阜の11府県に対して大雨特別警報が発表されました。昨年と回数は然程変わってはおりませんが、雨量自体は多くなっており、広い範囲で河川氾濫や土砂災害が発生し、「平成最悪」と言われるほどに各地で甚大な被害となりました。

【2018年ゲリラ豪雨予想発生回数全国分布図】

2018年 ゲリラ豪雨 予想発生回数
(2017年比)



2018年 ゲリラ豪雨 予想発生回数
(過去4年との比較)

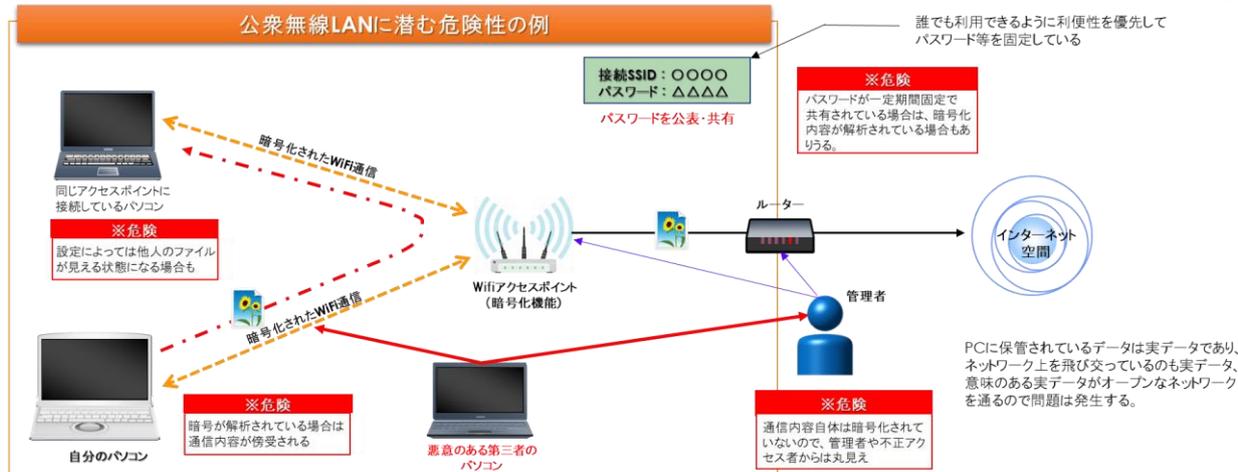


災害発生時にはその被害状況を把握し、避難やその後の復旧作業を速やかに行えるよう、迅速かつ正確な情報収集と情報提供が必要となります。まず何が起きているかを把握出来なければ、手の施しようがないからです。情報収集の手立てとして大手通信キャリアが用意した公衆無線LAN『00000JAPAN』の基盤が情報漏えいの危険性があると注意喚起されており、利用を抑制する発言も出ております。

【公衆無線 LAN(WiFi)は利便性を優先しているが故、セキュリティに課題が！】

公衆無線 LAN (WiFi) スポット (アクセスポイント) は利便性を優先しているが故、データの安全性に関する配慮がされていない。ホテルなどの施設ではパスワードが固定され、わかり易い場所に表記されている事も多く、仮に毎日定期的にパスワードを変更する運用ができれば、セキュリティ強度は上がると考えられます。しかし、管理や運用コストなどの企業負荷が増える事から一概に対応をすることはできないかもしれない。

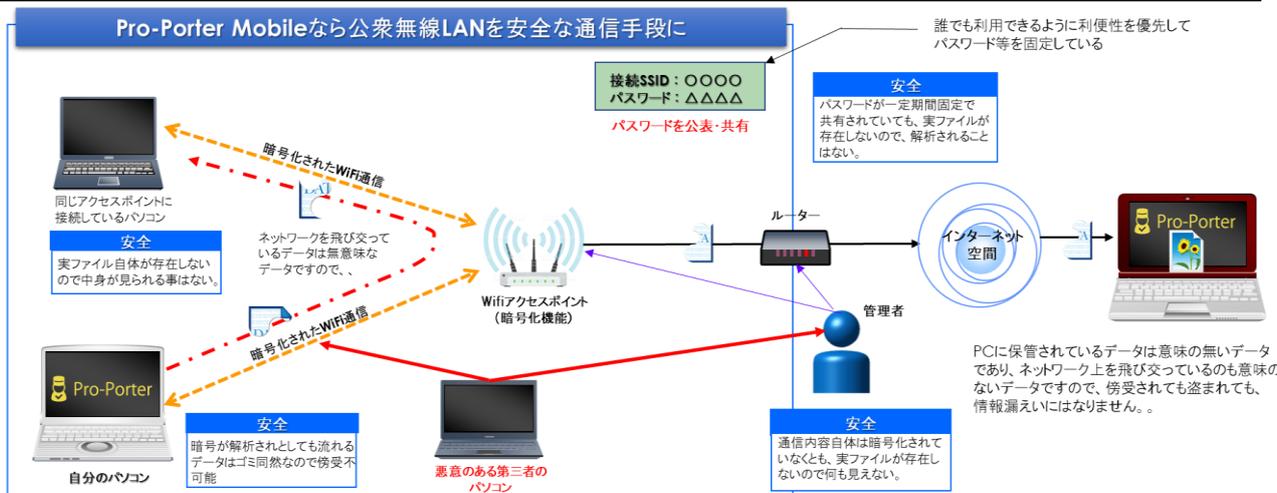
※ホテルやカフェなどで利用者向けの提供されている暗号化された公衆WiFiでは、通信が暗号化されているといっても**利便性を優先して(一定期間もしくは長期)固定されたパスワードによるもの**であるため、そのパスワードを既に解読している悪意ある第三者からは通信が丸見えになっている可能性があります。また、パソコンの設定によっては**同じパスワードを利用して同じアクセスポイントに接続している他の人たちから、共有フォルダなど自分のパソコン内のデータが見えてしまう状態**になることもあります。



災害時における公衆無線LANを無料で提供する「00000JAPAN」ですが、暗号化されていないアクセスポイントですので、通信内容を他者からの傍受され、盗み取られる危険性が潜んでいます。

災害時における公衆無線 LAN の「00000JAPAN」は誰でも使えるという利便性を確保するため、Wi-Fi 通信の暗号化などのセキュリティ対策は行われていない。そのため、攻撃者によって通信の途中で盗聴されたり、偽のアクセスポイントを使った情報奪取などの危険性があると注意喚起されております。緊急時には即時性と利便性が重要視されます。VPN 等を利用して通信を暗号化するセキュリティ対策がありますが、災害現場で利用できないケースもあり、即時性と言う観点からは相反する事になります。即時性と安全性と言う相反する仕組みこそが災害現場でもっとも必要なソリューションでは無いでしょうか？自治体の災害現場の作業効率を向上させ、且つ安全性を保証した運用を可能とするソリューションが『Pro-Porter Mobile』になります。

『Pro-Porter Mobile』はWiFi通信にながれるデータをゴミ同然の意味のない物へ変えます。『Pro-Porter Mobile』を持ち、且つ信頼関係を結んでいる受信者のみ実データに復元が可能です。如何なる通信経路を利用したとしても安全に確実に情報の授受を可能とします。また、『Pro-Keeper』と連携すればNote-PC内に保存されているデータ自体もゴミ同然の意味のない物に変える事が可能です。クラウドストレージを併用する事によりリスク回避が可能です。



暗号化されていないアクセスポイントであっても、通信経路を流れるデータ自身をゴミ同然の意味のないデータにしていれば、「00000JAPAN」を効果的に利用する事が可能ですし、その他の公衆無線LANを活用する事も可能です。

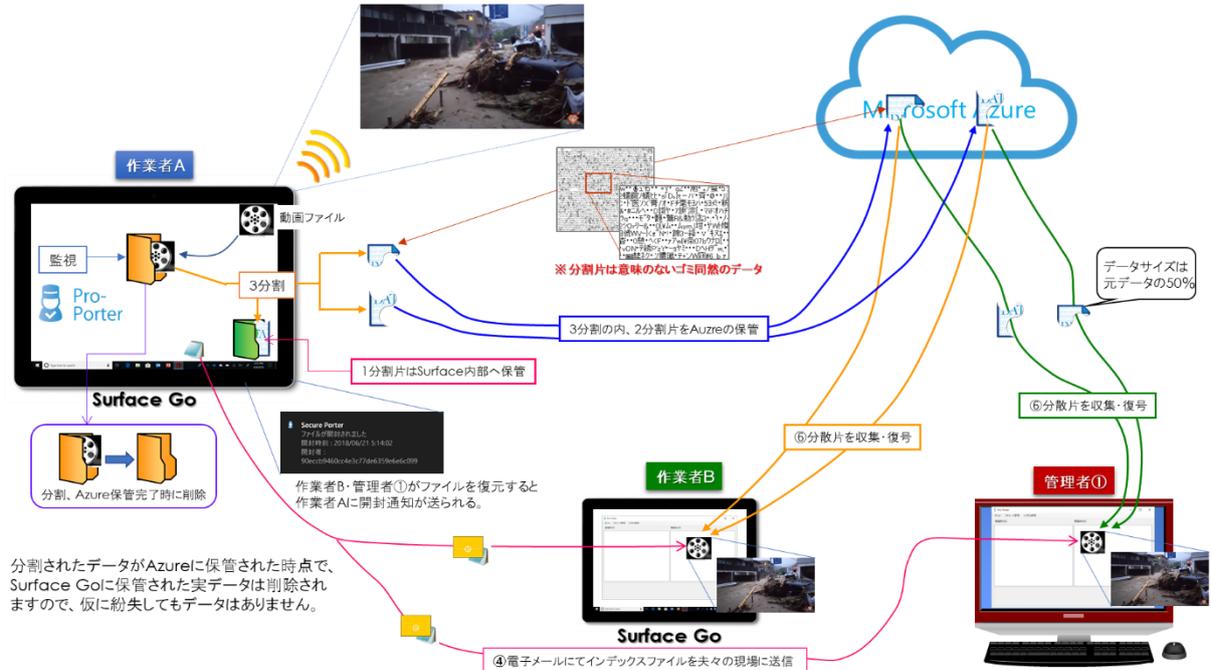
【データ自体を意味の無い物へ、発想の転換で公衆無線 LAN (Wifi) の安全性を確保！】

「00000JAPAN」の様で暗号化が施されていない Wi-Fi 通信経路であっても流れるデータは無意味なゴミ同然のデータであり、予め信頼関係を結んでいる相手に届いた時点で、ゴミ同然の無意味なデータが実データとして復元されます。仮に通信途中で窃取されたとしても中身を解読する事は絶対に出来ませんので、漏えい等の心配は一切ありません。公衆無線 LAN(公共 WiFi)の利便性を最大限に活用でき、災害時に情報伝達における大きな課題を解決できる画期的なソリューション、それが『Pro-Porter Mobile』なのです。

【公衆無線 LAN(WiFi)に流れるのは無意味データのみ、窃取されても価値はありません。】

『Surface Go』で撮影した画像データは無意味化され、『00000JAPAN』経由でAzureに保管。災害時の情報共有基盤を実現！

被災現場の状況を撮影(音声付)し、Surface Goに保存するだけでAzureをストックヤードとして全ての現場の情報共有が実現可能です。WiFiを介して送られるデータは意味のないゴミ同然のデータです、データ容量はMaxでも50%程度ですので、安全に且つ効率よく利用可能です。

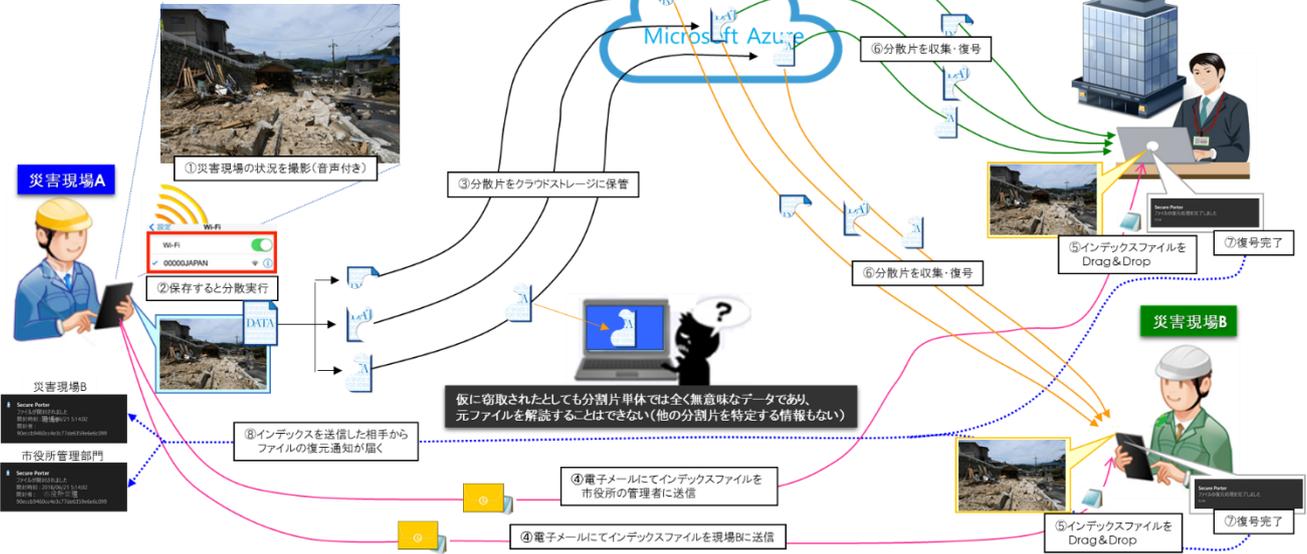


如何に安全性が乏しい通信経路でも、流れるデータが意味がなく、開くことができれば事故は起こりません。通信経路の安全性を確保するのではなく、流すデータ自体を無意味化して価値のない物へ変えてしまうという発想の転換で対応すれば、公衆無線 Wi-Fi を安全な通信手段として活用することができます。

【Surface Go を災害現場の情報収集ツールに、Azure 経由で情報を安全に確実に共有を実現】

『Pro-Porter Mobile』で送信されるデータは意味のないデータですので、仮に窃取されたとしても内容を見ることはできません。災害時に全てのキャリアで利用できる『00000JAPAN』の公衆無線LAN(Wi-Fi)を安心して利用する事が可能になります。被災地Aから送信されたメールの添付ファイルを受信BOXにドラッグ&ドロップするだけで、被災地の状況を的確に把握。『00000JAPAN』を通信経路で活用し、『MS-Azure』をストックヤードとして異なる災害現場の見える化を実現し、復旧対策のサポートに貢献致します。

※災害現場で撮影した画像は個人情報の可能性がある、分割された断片は個人情報には該当しない！



『Surface Go』で災害現場で撮影された罹災証明等に必要な記録（撮影や音声コメントをも含む）には、個人情報が含まれております。

災害時の公衆無線 LAN「00000JAPAN」は通信経路が暗号化されておりませんので、災害現場で撮影したデータが窃取されたら一般的には個人情報漏えいになります。

ですが、『Surface Go』によって撮影されたデータは保存された時点で、『Pro-Porter Mobile』によってゴミ同然の無意味なデータに分割変換され、『Azure Blob ストレージ』に一時保管されます。公衆無線 Wi-Fi を流れるデータも Azure に保管されるデータも全てゴミ同然の意味の無いデータであり、目的地に届いた時点で初めて実体化されます。

温暖化が進み、大雨により降雨量は確実に増加して行く傾向が高いと思います。事故が起こってからではその対応に追われます。河川の決壊に関しても弱いところが破られます。現場の環境を事前に把握することが災害に対して最も必要な行為であり、利用できるインフラを効果的に活用する事で、対応策はより具現化されます。IT を活用した予防こそが今望まれている事であり、取り組むべき事柄です。撮影されたデータが分割され、Azure に保存された時点で、Surface から消されますので、Surface を紛失した場合でもデータ漏えいは起こりませんし、一定時間利用しなかった場合、PIN 認証でパスワードを要求され、3 回間違えると Azure の情報自体が消去されますので、Azure にアクセスできません。

『Pro-Porter Mobile』は『Surface Go』を『00000JAPAN』の良いところのみを活用し、情報収集を簡単に且つ迅速・効果的に Azure を使って予防策を創り上げる事ができるソリューションアイテムです。

-関連製品【Pro-Porter】紹介サイト：http://www.innov-firm.co.jp/product_proPorter.html

■ 株式会社イノベーション・ファーム：<http://www.innov-firm.co.jp/index.html>

「00000JAPAN（ファイブゼロジャパン）」は、地震や台風、洪水などによる大規模災害が発生した際に、情報収集や安否確認の連絡などを行いやすくするために、無料で開放される公衆無線 LAN サービスです。

災害時の緊急性と誰でも使えると言う事から、暗号化通信にはなっておりませんので、情報が盗まれる危険性は背中合わせの状態です。通信経路の安全性を確保するのではなく、流れるデータ自体が取られても取り返すに値しない物であれば、心配する必要はありませんし、利便性のみを追求する事はできます。

マイクロソフトから発売された「Surface Go」の軽快な情報ツールに安全性を重ね合わせ、クラウドストレージ経由で誰でも何時でもダウンロードし、現場の状況確認を略リアルタイムで把握でき、しかも利用者の負担を大幅に軽減する画期的なソリューションを提供して参ります。

※ 本リリースに掲載されている製品名、会社名などの固有名詞は各社の商標または登録商標です。

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社イノベーション・ファーム 広報担当：山田

TEL：03-5823-4398 E-mail：inquiry@innov-firm.co.jp